

I 概 況

1. 管内町村の概況

区分 町村名	面積(Km ²) (H27.10.1) 国土地理院調	人口 (人)				人口密度 27国調 (人/Km ²)	世帯数			産業別就業者22国調(人・%)							
		17国調	22国調	27国調	住民基本台帳 (H28.1.1)		22国調	27国調	住民基本台帳 (H28.1.1)	総数	第1次		第2次		第3次		
											就業人口	構成比	就業人口	構成比	就業人口	構成比	
江 差 町	109.53	10,131	9,004	8,248	8,235	75.3	3,968	3,752	4,415	3,918	382	4.6	632	7.7	2,904	35.2	江
上ノ国町	547.71	6,417	5,428	4,876	5,297	8.9	2,307	2,173	2,593	2,241	404	8.3	615	12.6	1,217	25	上
厚 沢 部 町	460.58	4,775	4,409	4,049	4,175	8.8	1,868	1,765	1,984	2,162	737	18.2	348	8.6	1,077	26.6	厚
乙 部 町	162.59	4,816	4,408	3,906	3,976	24.0	1,863	1,729	1,924	1,850	279	7.1	565	14.5	1,003	25.7	乙
奥 尻 町	142.97	3,643	3,033	2,690	2,861	18.8	1,364	1,270	1,570	1,456	191	7.1	205	7.6	1,060	39.4	奥
今 金 町	568.25	6,466	6,186	5,628	5,626	9.9	2,388	2,280	2,612	2,943	880	15.6	441	7.8	1,621	28.8	今
せたな町	638.69	10,748	9,590	8,473	8,637	13.3	4,169	3,862	4,376	4,344	1,120	13.2	755	8.9	2,466	29.1	せ
(旧大成町)	133.95		1,966	1,580		11.8	945	803		709	153	9.7	137	8.7	419	26.5	大
(旧瀬棚町)	125.69		2,225	1,932		15.4	971	901		994	232	12	208	10.8	554	28.7	瀬
(旧北檜山町)	379.05		5,399	4,961		13.1	2,253	2,158		2,641	735	14.8	410	8.3	1,493	30.1	北
計	2,630.32	46,996	42,058	37,870	38,807	14.4	17,927	16,831	19,474	18,914	3,993	10.5	3,561	9.4	11,348	30	計

※産業別就業者27国調については、今後、公表される予定

区分 町村名	地方公共 団体コード	市町村 の類型	戸長役場設置	町制施行 年月日	合併等の状況	各種指定の状況							
						過疎	山村振興	工業再配置	半島振興	離島振興	特別豪雪	農業振興	
江 差 町	013617	Ⅲ-2	明治5年5月	M33. 7. 1	S30. 2. 11 泊村と合併	H 9. 4. 1		\$47. 10. 25	\$61. 3. 31			\$45. 10. 22	江
上ノ国町	013625	Ⅱ-1	明治12年12月25日	S42. 3. 1	M35. 4. 1 上ノ国ほか6ヵ村が合併し、 上ノ国村	S45. 5. 1	\$43. 12. 28 (S55年、三期指定)	\$47. 10. 25	\$61. 3. 31			\$47. 11. 4	上
厚 沢 部 町	013633	I-0	明治9年5月	S38. 3. 10		S45. 5. 1	\$41. 12. 20 (S47年、二期指定)	\$47. 10. 25	\$61. 3. 31		\$54. 4. 2	\$45. 10. 22	厚
乙 部 町	013641	I-1	明治12年12月25日	S40. 10. 1		H 3. 4. 1	\$45. 12. 24 (H14年、五期指定)	\$47. 10. 25	\$61. 3. 31			\$47. 11. 4	乙
奥 尻 町	013676	I-2	明治12年7月15日	S41. 1. 1		S46. 4. 30		\$47. 10. 25		\$29. 10. 12		\$47. 11. 4	奥
今 金 町	013706	Ⅱ-0	明治30年6月13日	S22. 10. 1	M30. 6. 13 瀬棚村より分村利別村 S22. 10. 1 今金町と改称	S55. 4. 1	\$44. 12. 27 (H13年、第五期指定)	\$47. 10. 25	\$61. 3. 31		\$51. 4. 9	\$46. 9. 27	今
せたな町	013714	Ⅲ-0		H17. 9. 1	H17. 9. 1 大成町・瀬棚町・北檜山町 が合併し、せたな町								せ
(旧大成町)	013668		明治2年8月15日	S41. 10. 1	S30. 7. 20 久遠村と貝取淵村が合併 し、大成村	S45. 5. 1	\$45. 12. 24 (旧貝取淵村 S51年、二期指定)	\$47. 10. 25	\$61. 3. 31			\$47. 11. 4	大
(旧瀬棚町)	013684		明治13年3月28日	T10. 1. 1		S46. 4. 30		\$47. 10. 25	\$61. 3. 31		\$54. 4. 2	\$48. 9. 29	瀬
(旧北檜山町)	013692		明治5年3月28日	S28. 10. 1	M35. 2. 19 瀬棚村より分村東瀬棚村 S28. 10. 1 町制施行により東瀬棚町 S30. 4. 1 太櫓村と合併し、北檜山町 と改称	S45. 5. 1	\$47. 2. 3 (旧太櫓村 S62年、三期指定)	\$47. 10. 25	\$61. 3. 31		\$54. 4. 2	\$44. 3. 31	北

2. 町 村 要 覧

江 差 町 えさしちょう



役場所在地 北海道檜山郡江差町字中歌町193番地1
郵便番号 043-8560
電話番号 (0139)52-1020
F A X (0139)52-0234
ホームページ <http://www.hokkaido-esashi.jp/>

〔町名の由来〕

江差とは、アイヌ語「エサシ」（昆布の意）から出たものである。

〔町章の由来〕

江差（エサシ）を図案化したもので、菱形「エ」は無限の発展を示し、「サ」を4個円形に配して円満と団結を表現したものである。

〔地 勢〕

当町は渡島半島の西海岸に位置し、南は上ノ国町、北は乙部町、東は上ノ国町及び厚沢部町に接し、西は日本海に面している。総面積は109.53km²、東西10km、南北17kmで厚沢部川を境に町村界が深く湾曲して入り込んでB型をなしている。南部は丘陵となって海岸線にせまり、北部は厚沢部川流域に水田が開け、当町農業の中心をなしている。市街地は、古くは海岸から発達し、現在は背後の丘陵地帯を中心に形成されている。

〔歴 史〕

今から800年前にこの地に和人が住みつくようになり、北海道文化発祥の地といわれている。江戸時代にはニシンの豊漁でにぎわい、人口も3万人を越え、いわゆる「江差の5月は江戸にもない」とうたわれ、商業の町、文化の町として繁栄した。明治に入り海陸の交通機関が発達するにつれ、しだいに後進地帯の色あいを深め、これに加えてニシンの不漁により昔の繁栄は見られなくなった。

明治5年江差に、同11年泊に戸長役場が置かれ、明治33年江差に1級町村制、同39年泊に2級町村制が施行された。大正10年に江差港が起工され、昭和4年に竣工、同11年には鉄道が開通し産業・経済の発展、住民生活の向上、経済圏の拡大が進められた。昭和30年、江差町と泊村が合併し、新しく江差町が誕生した。以来檜山支庁所在町として、管内における政治、経済、文化の中核的機能を果たしつつ着実な歩みを続けており、平成23年度策定された第5次総合計画に基づき「次代を担う人たちが夢を持てる町ーえさし」をめざした施策が着々と進められている。

〔町政のあゆみ〕

昭和30年	江差町・泊村が合併し江差町となる	平成 5年	江差町役場庁舎・江差町保健センター完成、朝日小学校完成
昭和38年	第1回江差追分全国大会開催	平成 6年	町民テニスコート・水堀町民プール完成、南が丘小学校改築着工
昭和40年	老人ホームひのき荘完成	平成 7年	行政出前サービス開始
昭和44年	円山都市計画街路事業着手、文化センター完成	平成 8年	南が丘小学校完成
昭和45年	町総合開発計画策定	平成 9年	過疎地域指定、第1回江差追分熟年全国大会開催
昭和46年	江差町ほか2町学校給食センター・江差町体育館完成	平成10年	石川県珠州市と友好都市提携、北海道指定有形文化財「旧檜山爾志郡役所」修復落成
昭和48年	豊川町街路事業着手、水堀支所廃止	平成11年	町民野球場落成
昭和49年	檜山10町広域消防組合発足、「巴まさり」が道内初の特定銘柄米に指定	平成12年	町政100周年記念式典
昭和50年	埋蔵文化財・開陽丸遺物発掘開始	平成13年	第4次町総合計画策定、在宅型総合福祉施設落成 町会所完成、風力発電事業の開始
昭和51年	都市計画法指定「松の岱公園」完成	平成14年	江差北中学校開校、砂川浄水場通水式
昭和52年	江差追分北海道無形民族文化財指定	平成15年	運動公園多目的広場落成、壱番蔵落成
昭和53年	江差町民憲章制定	平成17年	江差いにしえ街道完成
昭和56年	第2次町総合開発計画策定	平成18年	江差港新北埠頭完成 国道227号線日明橋完成
昭和57年	江差追分の殿堂「追分会館」完成、江差町史全6巻完成	平成19年	江差北小学校開校
昭和59年	マリナー施設建設着工、滋賀県能登川町と姉妹都市提携	平成20年	豊年山展示山車蔵完成
昭和61年	水堀小学校完成	平成22年	江差山車会館完成
平成元年	江差港マリナー施設完成	平成23年	江差町第5次計画策定
平成 2年	青少年研修施設開陽丸完成、江差町文化会館完成	平成25年	江差中学校改築着工
平成 3年	第3次町総合計画策定	平成26年	J R江差線廃線
平成 4年	江差町老人福祉センター（デイ・サービスセンター併用）完成	平成27年	江差中学校完成

〔行政施策の重点事項〕

- ①経済基盤を持続させる地場産業の振興
若者の雇用の場づくり、地域が自立できる経済基盤の確立を意識した産業振興をめざし、一次産業を核とした裾野の広い地場産業の振興を目指します。
- ②住民が元気に安心して暮らせる生活環境づくり
過疎化や高齢化など、人口やその年齢構成に変化があっても、住んでいる人がいつまでも安全で安心して生活できる環境をつくりまします。
- ③人と人とのつながりを大切にされた地域福祉や生涯学習、まちづくり活動の推進
行政と住民、住民相互がお互いに任せきりにせず、関心を持ち連携し合う関係を築きながら、福祉や教育、まちづくり活動などを進めます。
- ④身の丈にあった行政運営の推進
「折居姥の教え」を教訓とした、「身の丈＝財政規模・税収見込み」に合わせた行財政運営を行い、計画の進行管理に努めます。

〔文化・観光〕

- 江差姥神大神宮渡御祭 370年余の伝統を誇る北海道最古の夏祭りである毎年8月9・10・11日の3日間行われ、13台の山車が町内をねり歩く様子は、京都祇園祭りの流れを汲む道内最古の祭りといわれている。
- かもめ島まつり 江差町のシンボルとして町民に親しまれている「かもめ島」では、毎年7月第1土・日曜日に盛大に海の祭典が繰り広げられる。
- 江差追分全国大会 毎年9月第3金・土・日曜日の3日間、全国から選抜されたおよそ400人の出場によって日本一のノドを競い合っている。昭和38年に第1回大会を開き、平成24年で50回目の記念大会を迎えた。
- 追分会館 観光客を温かく迎えるため、江差追分をはじめ数多くの民芸を披露している。

〔産業・経済〕

1. 農業
気候風土にあった農業づくりをめざして、生産技術の向上による良質米の維持確保と畑作の安定生産に加え、立茎アスパラとブロッコリー、高設いちごなどの振興を図っている。
2. 水産業
漁家経営の安定を図るため、スケトウダラ・イカなど回遊魚種に加え、沿岸漁場の整備開発やナマコ、アワビなど浅海増養殖事業の振興の促進を図っている。
3. 商工業
歴史をいかす街並み整備との整合性を保ちながら、町内各商店街の連携を深め、消費者のニーズや買い物の利便性を考慮したサービスを提供するなど、商店街の魅力向上、賑わいの再生等の活性化を図ります。
また、農商工連携により地場の農水産物を活用した特産品の開発や積極的な販路拡大により江差の食のブランド化を実現し地場産業の創出に繋がります。
4. 観光
貴重な自然景観及び姥神まつりや追分文化に恵まれ、北海道新幹線開業を見据えた着地型観光並びに広域観光圏と連携して、四季を通じた魅力ある観光地づくりを目指している。

〔主な公共施設〕

コミュニティーセンター 町民プール 追分会館 山車会館 対鷗館 老人ホームひのき荘
漁村センター 江差港マリーナ 文化会館 図書館 在宅型総合福祉施設「まるやま」(デイ・サービスセンター併用) 老人福祉センター 江差町保健センター 町民テニスコート
野球場 多目的広場 町会所 旧檜山爾志郡役所 小学校(3) 中学校(2) 児童館(2)



役場所在地 北海道檜山郡上ノ国町字大留100番地
郵便番号 049-0698
電話番号 (0139)55-2311
FAX (0139)55-2025
ホームページ <http://www.town.kaminokuni.lg.jp/>

【町名の由来】

15世紀ころ、北海道（夷（えぞが）島（しま））南部の日本海側は、上ノ国（かみのくに）、太平洋側は下の国（しものくに）と称されていた。勝山館を擁し、日本海・北方交易の拠点として栄えたこの地に上ノ国（かみのくに）の名前が残ったことに由来する。

【町章の由来】

「上国」を円形化し、町の平和を象徴したものである。

【地勢】

渡島半島の南西、檜山振興局管内の最南端にあつて、北は江差町、南は松前町に隣接し、東は渡島山脈の分水嶺をもって木古内町と境し、西は日本海に面している。総面積は約547km²を擁し、その92%が豊富な地下資源、森林資源を有する山岳地帯で占められているが、町の北部を流れる天ノ川流域には肥沃な平野が形成され、耕地として利用されている。集落は天ノ川、南部の石崎川両流域と、日本海をのぞむ海岸線約30kmに点在的に形成されている。

【歴史】

北海道で最も早い時期に和人が定住した地域のひとつで、中世には渡島半島各地に館（たて）と呼ばれる山城が多数築かれ、そちらを中心として活発な交易活動や支配地の拡大が図られていた。

長禄元年（1457年）にアイヌの大首長コシャマインにより、これらの館は次々に攻め落とされたが、上ノ国の花沢館主・蠣崎季繁の客将であった武田信広が和人人地の危機を救ったといわれている。その後、信広は蠣崎家を継ぎ、上ノ国に洲崎館や勝山館を築き、上ノ国は政治、経済、軍事の中心拠点として繁栄した。

永正11年（1514年）二代光広は本拠を松前に移したが、勝山館には16世紀末まで城代が置かれ、日本海側の中心として賑わいを見せた。延宝6年（1678年）江差に檜山奉行所が設置されると、その役割は江差へと移っていった。

このような歴史的沿革から北海道では貴重な中世の史跡や文化財を多数有する歴史のまちとなっています。

【町政のあゆみ】

明治12年	上ノ国村内に3戸長役場設置	平成4年	日本海情報交流館“文珠”完成、旧笹浪家住宅が国の重要文化財に指定
明治35年	上ノ国村外6ヶ村を上ノ国村とし2級町村制施行	平成5年	上国寺本堂が国の重要文化財に指定
大正11年	木古内山道開通、上ノ国石崎間道路（準地方費道）竣工	平成7年	上ノ国町総合福祉センター“ジョイじょぐら”完成
昭和2年	上ノ国村役場庁舎新築	平成8年	統合上ノ国中学校開校
昭和11年	国鉄江差線全線開通	平成9年	滋賀県安土町と友好町締結
昭和42年	町制施行、第1次総合発展計画策定	平成10年	風力発電所完成
昭和48年	町民体育館・広域水道完成	平成11年	栽培漁業総合センター完成
昭和50年	勝山・花沢館跡国の史跡に指定	平成12年	新上ノ国地区地先型増養殖（海洋牧場）完成
昭和53年	開基790年・戸長役場設置100年記念	平成13年	上ノ国町高齢者能力活用センター完成
昭和55年	国道228号線石崎～小砂子間12橋完成	平成14年	上ノ国町高齢者等健康づくり総合交流センター完成 上ノ国ダム完成、湖名を「あすなろ湖」に命名
昭和56年	新庁舎完成、町制施行15年記念	平成17年	上ノ国町行財政改革計画策定
昭和57年	上ノ国町ほか3町による組合立上ノ国高校開校（昭和59年道立移管）	平成21年	天の川きららトンネル完成 第5次上ノ国町総合計画策定
昭和60年	町立上ノ国診療所新築落成		
昭和63年	開基800年・戸長役場設置110年記念、青森県市浦村と友好町締結		

【行政施策の重点事項】

平成22年度に新たなまちづくりの指針となる第5次上ノ国町総合計画を策定し、基本テーマを「輝くまちわたしたちの上ノ国」～一人ひとりが輝くまち 暮らしやすいまち 協働で未来を築くまち～と定め、住民と行政が協働したまちづくりを進めるための特色として、住民・地域・事業所などが行政と協力し、それぞれの立場で自主的・主体的にまちづくりに取り組む内容を「協働の指針」と定め、みんなで進めるまちづくりの実現を目指している。

1. 創意工夫で地域の活力を起こす産業交流のまち
2. だれもが安心して生涯健やかに暮らせるまち

3. 自然と共生し美しくゆとりある安全安心のまち
4. 自ら学び地域とともに人を育む教育文化のまち
5. 語らいとふれあいが実感できる参画協働のまち

〔文化・観光〕

夷王山周辺一帯は、北海道黎明の地にふさわしい中世の遺構に恵まれ、国指定史跡勝山館跡・花沢館跡をはじめ、国指定重要文化財上国寺・旧笹浪家住宅などの歴史的文化遺産が数多く残されており、中世史跡公園として整備が進められている。また、日本海に浮かぶ渡島大島・奥尻の島影を夕日が染めていく情景は、限りなく旅情を誘い、風光明媚をもって知られる渡島―檜山―後志にわたる追分ソーランラインの中にあって、ひととき異彩を放つ稀有壮大な景観である。

〔産業・経済〕

本町の産業構造は、農林水産業の一次産業を主体としている。

農業は北海道でも比較的温暖な気候に恵まれ、古くから稲作を中心とした農業が発展し、現在は農地の集約による農作業の効率化を図り、キヌサヤエンドウや立茎アスパラガス、高設いちご、ニラなどの高収益作物野菜の栽培にも取り組んでいる。

林業は土地・気象条件が杉・カラマツ・トドマツ・桐等の成育に適しており、逐次人工林化を図るとともに、森林に対する社会的要請の高まりと多様化に対応した森林整備の推進に努めている。近年、「魚を育む森」造成などのため、緑の回廊構想を進化させた「日本海グリーンベルト構想」により植栽活動などを積極的に推進している。

漁業はイカ、マス、スケトウダラなどの回遊魚中心の漁船漁業が主体であったが、近年、資源管理漁業へ転換させ、漁船漁業と増養殖漁業による複合型生産体制を目指し、沿岸漁場の改良、魚礁、産卵礁を造成し、アワビやナマコの養殖やニシン種苗の放流など中間育成等の各種増養殖事業に取り組んでいる。

〔主な公共施設〕

上ノ国町上水道（14地区） 簡易水道（6地区） 総合福祉センター 保育所（2） 児童館（1）

女性活動支援センター 僻地保健福祉館 生活館 診療所（2） 歯科診療所（2）

国民温泉保養センター 町民体育館 林業センター 町民プール（1）

生活改善センター（9） コミュニティセンター 担い手センター 集会施設（4） 日本海情報交流館

工芸センター 花沢温泉簡易浴場 栽培漁業総合センター 高齢者能力活用センター

高齢者等健康づくり総合交流センター 小学校（3） 中学校（1）



役場所在地 北海道檜山郡厚沢部町新町207番地
 郵便番号 043-1113
 電話番号 (0139)64-3311
 F A X (0139)67-2815
 ホームページ <http://www.town.assabu.lg.jp/>

〔町名の由来〕

厚沢部とは、アイヌ語「ハチャムペツ」より「アッサブ」と転訛したもので「桜島川」の意である。

〔町章の由来〕

全体的に厚沢部町の先人が厳しい風雪に耐え開拓者精神に燃えて開墾し、さらに雄々しく伸びる厚沢部町の「水田王国」を表すとともにアッサブの「ア」を表現し、金色は水稻を表している。外郭は濃緑にして森 林豊かな厚沢部を象徴したものである。

〔地 勢〕

北海道の南端、渡島半島西方、檜山郡の南部に位置し、東南北の三方は山地に覆われ、西方はしだいに低くなっている。厚沢部川、安野呂川及び鶉川の流域沿いの低地とその背後の丘陵地には農耕地が開け、台地は砂壤土からなり、低地は沖積土で地味は極めて肥沃で、その上、気候に恵まれており、米・馬鈴薯・蔬菜の栽培に適している。

〔歴 史〕

延宝6年(1678年)松前藩の所領であったヒノキ山の解放により、この伐採のため内地から渡来した杣夫が定着者となり、農業を副業として各河川流域の開墾が始められた。明治39年4月に2級町村制の施行を契機に行われた移民招致によって、年を追って移民が増大し、高台地及び奥地の開墾が進められ、更に戦後の開拓行政で273戸が民有地及び国有未開地等に入植した。人口は漸増を続け、昭和35年の国調では1万651人に達したほどであったが、その後、国内経済の高度成長とともに、人口は加速度的に減少に転じ、平成27年の国勢調査では4,049人となっている。

〔町政のあゆみ〕

明治9年	戸長役場が蛾虫(新町)に設置	平成2年	総合体育館新築工事完成
明治39年	2級町村制施行により厚沢部村が新生	平成4年	産業会館新築工事完成
明治43年	檜山農事試験場設置	平成5年	特別養護老人ホーム「あっさぶ荘」開設、町制施行
昭和24年	町立厚生病院開設		30周年記念式典を施行、多目的運動広場改修工事完成
昭和27年	蛾虫(檜山)に営林署庁舎落成	平成7年	宿泊研修施設「うずら温泉」開設
昭和35年	字名・地番改正	平成9年	厚沢部地区下水道供用開始
昭和38年	町制施行	平成11年	鶉ダムオートキャンプ場「ハチャムの森」オープン
昭和42年	厚沢部川改修工事完成	平成12年	赤沼地区下水道供用開始
昭和45年	国営厚沢部川かんばい工事着工	平成14年	鶉ダム供用開始
昭和47年	国営相和地区農地開発事業着工		土橋自然観察教育林(レクの森)が日本の「遊歩百選」に認定
昭和50年	厚沢部高等学校定時制農業科を全日制普通科に転換	平成15年	農業活性化センター試験栽培用温室完成
昭和51年	山村開発センター・役場庁舎新築工事完成、開基100年記念式典を施行	平成16年	緑町・富栄地区下水道供用開始
昭和52年	厚沢部小学校改築工事完成、館地域振興センター完成		町道新町市街地線改良事業着手
	地籍調査事業完成		厚沢部町消防署館分遣所改築工事完成
昭和53年	厚沢部中学校改築工事完成	平成17年	保健福祉総合センター新築工事着手
昭和55年	鶉中学校改築工事完成		全国町村会優良町村表彰受彰
昭和56年	清水小中学校新築工事完成	平成18年	保健福祉総合センター「あゆみ」完成
昭和57年	鶉地区多目的研修集会施設工事完成		町誕生130周年記念式典施行
昭和58年	館小学校改築工事完成		札幌酒精工業(株)厚沢部工場誘致
昭和59年	鶉小学校改築工事完成	平成21年	館町地区一部下水道供用開始
昭和60年	図書館・郷土資料館完成、緑町森林展示館完成		第3セクター「素敵な過疎づくり(株)」設立
昭和61年	鶉地区町民プール完成	平成22年	美和小学校改築工事完成
昭和62年	国保病院改築工事完成		厚沢部地区町民プール完成
			館町地区下水道供用開始
		平成25年	まちなか交流センター完成

〔行政施策の重点事項〕

平成22年度に平成32年度を目標年次とする第5次総合計画を策定し「地域力で育む“素敵な過疎のまち”厚沢部」をテーマにまちづくりを進めている。

1. 誰もが健康で安心して暮らせるまちづくり
地域福祉の推進、子育て支援の充実、高齢者福祉の充実、障がい者福祉の充実、健康づくりの推進、地域医療の充実
2. こころ豊かな人を育むまちづくり
学校教育の充実、青少年の健全育成、豊かな学習環境づくり、スポーツ振興、歴史と自然の保存と活用
3. 活力みなぎる産業振興のまちづくり
農業の振興、林業の振興、商工業の振興、観光の振興、移住・交流の推進
4. 生活基盤が充実したまちづくり
適正な土地利用の推進、快適な住環境の整備、道路・交通網の充実、上・下水道の整備、情報通信体制の充実
5. 安全で快適に暮らせるまちづくり
防災体制の充実、交通安全対策の充実、防犯体制の充実、消防・救急体制の充実・治山・治水対策の充実、環境保全の推進、ごみ・し尿処理体制の充実
6. 行財政改革を推進するまちづくり
効率的で健全な行政運営、開かれた行政、住民参画の推進、コミュニティの活性化、男女共同参画社会の形成

〔文化・観光〕

本町は、観光拠点となる資源はないが、町全体が山間に開け四季の景勝に富んでいる。特に全国的にも、また学術上からも貴重な北限と南限の植物が混生している土橋自然観察教育林、松前藩館城跡及び稲倉石古戦場の史蹟、天然記念物鶉川五葉松の北限、太鼓山及び矢櫃峡等の名勝地があり、観光客というより近郊都市住民が自然を求めて訪れ、その数は年々増加している。

〔産業・経済〕

本町面積の83%は林野で占め、古くは林産物の供給地として地域の経済の大宗を支えたものであるが、河川流域等の肥沃な土地が漸次農耕地に開墾され、基幹産業は農林業となっている。農業の重点作目は気候壤土からして稲作を主体に、馬鈴薯（メークイン）及び大小豆、野菜となっている。第2次産業の主たるものは、産地木材企業として7工場が家具材等の原板を生産しており、加工度の向上が期待されている。また、第3次産業は、小規模の商店が町民の必需品を販売している程度である。

〔主な公共施設〕

小学校（4） 中学校（3） 生活改善センター 常設保育所（3） 町民プール（2）
寿の家（2） 国保病院 コミュニティセンター（2） 山村開発センター
館地域振興センター 鶉地区研修センター 館地区憩いの家 総合体育館 郷土資料館 図書館
森林展示館 産業会館 多目的運動広場 宿泊研修施設「うずら温泉」 ふれあいセンター（10）
鶉ダムオートキャンプ場「ハチャムの森」 保健福祉総合センター まちなか交流センター



役場所在地 北海道爾志郡乙部町字緑町388番地
 郵便番号 043-0103
 電話番号 (0139)62-2311
 F A X (0139)62-2939
 ホームページ <http://www.town.otobe.lg.jp/>

【町名の由来】

乙部とは、アイヌ語「オトウンペ」（川尻に沼の多い川）から転訛したもので、川は現在、姫川と命名されている。

【町章の由来】

乙と部（べ）を図案化して組み合わせるとともに、町の地形を表現した。即ち中央の突き出した部分は乙部岳を、べの点は波形で海を表したものであり、また総体の形を昔の「こ袋」（金を入れる布の袋）の形として豊かな町を願ったものである。

【地 勢】

本町は、檜山振興局管内のほぼ中央に位置し、南は江差町、北は八雲町（旧熊石町）に接し、東は乙部岳・突符岳を結ぶ渡島山脈の分水嶺を境に厚沢部町、渡島総合振興局管内八雲町に隣接している。河川は山岳から海に注いでおり、特に姫川・突符川流域は狭長なる平野をなし、農耕地としての条件は良い。集落は海岸を走る国道229号線沿いと、姫川上流の丘陵地帯に形成されている。

【歴 史】

本町の開基は、今から約560年前の嘉吉年間（1441～1443年）に福井地方からはじめて和人が住みつけたのが始まりであると伝えられている。以後、ニシンの豊漁などで越後・佐渡・能登方面から移住者が増え、天明年間（1781～1789年）までニシンの干石場所として江差に次ぐ町として発展した。時代の変遷に伴い、明治4年廃藩置県により館県、つづいて弘前県・青森県の治下に入り、明治12年乙部・三ツ谷に戸長役場が置かれた。次いで明治19年北海道庁函館支庁管下になり、乙部村に戸長役場の併合があつて現在の乙部町の区域となり、明治35年2級町村制の施行により、村名を「乙部村」とした。昭和40年に町制施行、昭和54年には開町100周年、更に平成27年には町制施行50周年を迎え、たゆみない前進を続けており、地方創生に向けた新たな決意で町づくりが進められている。

【町政のあゆみ】

昭和40年	町制施行、役場庁舎新築落成	平成10年	ゆりの里活性化センター完成
昭和47年	乙部町総合計画基本構想策定	平成12年	ホームケアセンター完成
昭和51年	乙部町町民会館新築落成	平成13年	公共下水道供用開始 北海道巨樹巨木サミット
昭和54年	乙部町民体育館新築落成、開町100周年記念式典挙行	平成14年	第4次乙部町総合計画策定 高齢者ふれあいセンター完成
昭和55年	乙部町特別養護老人ホーム新築落成	平成15年	元町みなと交流館完成
昭和56年	館浦温泉湧出、乙部町館浦温泉憩いの家新築落成	平成16年	乙部統合中学校校舎完成
昭和57年	乙部町自然環境活用センター新築落成	平成17年	栄浜ふれあいセンター完成 特別養護老人ホームおとべ荘民間委託 (公設民営高齢者福祉特区)
昭和58年	第2次乙部町総合計画策定、乙部町公民館新築落成	平成21年	街なみ環境集会施設プラザおとべ完成 館浦温泉ボーリング探査、湧出
昭和60年	町制施行20周年記念式典挙行	平成23年	とよはま地区センター完成
昭和62年	屋内温水プール落成完成	平成24年	乙部町まちづくり計画策定
平成元年	サクラマス種苗センター落成	平成26年	千岱野ふるさと館完成
平成 2年	元和台海浜公園「海のプール」完成、町制施行25周年記念式典挙行、乙部町消防庁舎新築落成	平成27年	宿泊体験施設・光林荘完成 館浦温泉公園多目的運動場完成 町制施行50周年記念式典挙行
平成 3年	第3次乙部町総合計画策定		
平成 5年	公共用乙部ヘリポート開港 生きがい交流センター完成		
平成 6年	健康遊歩道設置、姫川ふれあいセンター完成		
平成 7年	町制施行30周年記念式典挙行		
平成 8年	防災行政無線開局		

【行政施策の重点事項】

町民とともに考え、ともに歩む開かれた町政、心の通う、思いやり、いたわりのある明るい平和な人づくり、まちづくりを目指し、次の4項目に力点を注いでいる。

1. 活力ある産業の育成と働く場の確保
2. 心豊かな住みよい地域社会の形成
3. 開発事業の促進
4. 行財政の健全運営

〔文化・観光〕

縄文遺跡（188ヶ所）。三ツ谷貝塚。江戸時代の円空、木喰仏。箱館戦争（官軍上陸）古戦場跡。ニシン漁をしのばせる民具資料。義経伝説の乙部岳。檜山道立自然公園「与作とお岩の悲恋物語」の館の岬。柱状節理の岩膚で有名なしびの岬（北海道天然記念物）。林野庁全国巨樹・巨木「森の巨人たち百選」に選定された名木「縁柱」。第9回日本農業賞受賞に輝く食用百合根。昭和56年に湧出した館浦温泉。自然景観豊かな元和台海浜公園、全国でも珍しい自然を生かした海のプール（平成13年環境庁日本の水浴場88選入選、平成18年環境省選定日本の快水浴場百選入選）。国土庁地域活性化貢献企業賞受賞のCACの化粧品工場。障がい者が利用できるバリアフリーホテルあすなろなど。歴史マンガブック第1巻「明治政府軍の乙部上陸」、第2巻「乙部むかしむかし」、第3巻「乙部の歴史（上）（下）」、歴史アニメーションビデオ「新北海道の夜明け」、おとべ植物ガイドブック、乙部町史上・下巻、乙部町史年表、「といの水、八幡さんの水、能登の水、こもないの水、ひめかわの水」の生命の泉など。

〔産業・経済〕

農業は稲作の良食味米の生産を奨励し、畑作は大豆、ニンジン、馬鈴薯等を主要作物として、高設イチゴ立茎アスパラ、温泉熱を利用したトマトやキュウリ、また、新規作物としてブロッコリーなどの栽培にも取り組んでいる。

漁業はスケトウダラやイカ等の回遊資源に対する依存度が非常に高く、これらの漁船漁業の豊凶により、生産は大きく左右されている。このため、漁業整備はもとより沿岸漁場の改良、魚礁、産卵礁の造成を図るとともに、サクラマス、ホタテ養殖、ウニ、サケ、マス種苗放流や中間育成等の各種増養殖事業、ナマコ人工種苗生産試験事業などに取り組んでいる。

〔主な公共施設〕

公民館 町民会館 町民体育館 国保病院 保育園 おとべ温泉いこいの湯 宿泊体験施設・光林荘
特別養護老人ホーム 三ツ谷研修会館 寿の家 町民グラウンド 町民公園
町民（温水）プール 富岡スキー場 小学校（3） 中学校（1） 館浦温泉公園多目的運動場
元和台海浜公園 ヘリコプター場外離着陸場 生きがい交流センター 健康遊歩道 姫川ふれあいセンター
貝子沢化石公園 防災行政無線 高齢者ふれあいセンター 在宅福祉保健複合施設「ホームケアセンターおとべ」
元町みなと交流館 栄浜ふれあいセンター 街なみ環境集会施設プラザおとべ とよはま地区センター
千岱野ふるさと館



役場所在地 北海道奥尻郡奥尻町字奥尻806番地
 郵便番号 043-1498
 電話番号 (01397)2-3111
 F A X (01397)2-3445
 ホームページ <http://www.town.okushiri.lg.jp/>

〔町名の由来〕

奥尻とは、アイヌ語「イクシュンシリ」（沖の島）、「ヲコシリ」（向の島）の転訛したものである。

〔町章の由来〕

発展と団結力を一筆書きで表現し、今後ますます飛躍をつづける円満なる理想郷を、平仮名文字で「おくしり」と図案化したものである。

〔地 勢〕

北海道の西南端檜山郡江差町より、西北61kmの日本海上に位置し、周囲84km、東西11km、南北27kmの離島でやや三角形をしており気候は穏やかである。海岸線に点在する集落は大小あわせて17あり、主として東海岸線にある。地形的にはやや中央に584mの神威山があり原始林の多い所から、比較的水流が多い、南部地区は平坦地が多く農耕に適しているため水産はもちろん畜産なども盛んであり、西海岸には温泉が湧出している。

〔歴 史〕

本島には遠く縄文時代から人が住んでいたことが、青苗遺跡から発掘された数々の出土品によって証明されている。その詳細は今後の調査を待たなければならないが、奥尻の歴史は既に5,000年以上も前から始まっているといえる。そして長い空白の時間を経た後、今から約500年前に北海道開拓の祖、武田信廣公が渡道の途次、本島に上陸して居住した史跡があり、その頃、多少人家が点在していたことも城郭寺院などの廃墟旧跡からうかがえる。明治12年に釣懸村（現、字奥尻）に戸長役場が置かれた。同39年4月1日、2級町村制が施行され、この年の戸数は200戸を越えていた。以来、本島は発展の一途をたどり、昭和39年の奥尻大火にもめげず、町民のたゆまぬ努力によって見事に復興、昭和41年1月、町制が施行されて現在に至っている。

〔町政のあゆみ〕

明治12年	戸長役場を設置	平成 8年	海洋研修センター「ワラシャード21」完成
明治30年	檜山支庁管轄下となる		北淡町と友好姉妹都市調印
明治39年	北海道2級町村制施行され奥尻村役場となる	平成 9年	青苗漁業集落排水施設完成
昭和29年	離島振興法の適用	平成10年	北海道南西沖地震復興宣言
昭和41年	町制施行		北海道南西沖地震奥尻島慰霊碑「時空翔」除幕
昭和44年	会期90周年記念調子発行		国営草地開発事業完成
昭和45年	奥尻中学校新築（奥尻・宮津・稲穂3中学校統合）	平成11年	大型新造船フェリーポート「アヴローラおくしり」就航、あわび種苗育成センター完成
昭和46年	過疎地域対策緊急措置法適用	平成12年	青苗漁港人口基盤「望海橋」落成、津波館落成
昭和47年	農業振興地域の整備に関する法律の適用	平成13年	タイムカプセルうにまる開函
昭和49年	奥尻小学校新築（奥尻・赤石2小学校統合）、奥尻空港開設		幌内地区産業開発道路完成
昭和50年	塵芥処理施設設置（10t／日） 町立国保病院完成	平成14年	奥尻クリーンセンター完成
昭和53年	し尿処理施設設置（10t／日）	平成15年	稲穂小学校、宮津小学校に統合 奥尻町環境センター完成
昭和54年	家庭用灯油備蓄タンク完成供給開始	平成18年	新奥尻空港第2期工事完成3月供用開始
昭和55年	防災行政無線放送施設完成・放送開始		北海道マリナビジョン21指定地域に認定
昭和56年	青苗中学校新築（青苗・神威脇2中学校統合）、彫刻「北追岬」完成（制作者：流政之氏）	平成19年	航空自衛隊奥尻分屯基地新レーダー落成 一般廃棄物最終処理場供用開始
昭和57年	郷土資料館開設	平成22年	リトーレパークゴルフ場完成
昭和62年	奥尻高校校舎総改築落成、大型新造船フェリーポート就航	平成24年	交通事故死ゼロの日4000日達成
平成 3年	特別養護老人ホーム「おくしり荘」落成	平成26年	奥尻小学校、宮津小学校を統合（旧宮津小学校校舎に移転）
平成 5年	南西沖地震災害により災害救助法適用 災害復興対策室を設置 災害復興基本計画を策定 復興基金を造成・支援事業開始	平成28年	道立奥尻高等学校の町立移管
		平成29年	青苗中学校、奥尻中学校を統合（新校舎建設し、中・高一貫教育を開始）

〔行政施策の重点事項〕

平成23年に第5期奥尻町発展計画を策定し、「人の絆と営みが織りなす幸せなおくしリズム ～島じかんが紡ぐみんなの笑顔～」をテーマに島の魅力をさらに高め、離島であるというハンディキャップを克服し、町民が自慢できる町（島）づくりに取り組んでいる。

まちづくりの基本理念「島ぐるみのまちづくり」

島らしさを：離島ならではの特性や資源の「島らしさ」を十分に活用し地域産業を活発にし、まちの底力、活力を高める。

島のなかで：「島でできることは島のなかで」。町民のココロもカラダも健やかに安心や生きがいを感じる島くらしができるまちを目指す。

島からそとへ：「島からそとへ」そして「そとから島へ」と奥尻町への愛着や魅力を高め、町内外とのつながりを強める。

島とともに：子どもからお年寄りまで、全ての町民が島の歴史・文化・風土を受けとめ、育みながら「島とともに」着実に歩いていくことができるまちを目指す。

〔文化・観光〕

本町は昭和36年檜山道立自然公園に指定され、多彩な観光資源をもち、まさに日本海探勝コースの圧巻といわれている。島の魅力は、なんといっても素朴で荒削りの風景と新鮮な魚やあわび・ウニ、またそれに合わせ、奥尻ワインや、特別純米奥尻の味覚が、また格別である。フェリーによる江差港から140分、瀬棚港から95分の船旅は日本海横断の気分を十分満喫させてくれる。平成5年に発生した北海道南西沖地震災害により観光産業は一時不振となったが、復興と共に取り戻した街並み、景観に震災前の観光客の数を取り戻しつつある。また、平成18年度より大型航空機就航により個人・団体客をはじめ観光振興に期待がされている。

〔産業・経済〕

本町は地理的に日本海に囲まれているために、その立地条件から第1次産業が主体あるが、近年イカ等の回遊魚の不振により、これに代わってあわび・ウニ・ホタテなどの根付資源の育成を図り、これらに関連する地場産業の振興が期待されている。

また畜産については、大規模草地開発など長期構想のもとに逐次生産体制を整備しつつある。観光については、奥尻空港の拡張と大型機の就航が実現され、安定的な運行が維持されることによる物資をはじめとする輸送手段としての積極的な活用や、アクセス時間の短縮により経済効率や、観光面への有益も期待される。

その他、再生可能エネルギーである木質バイオマスや地熱の利用を事業化し、温泉熱を利用した産業の開発研究など、エコアイランドの取り組みも行われている。

〔主な公共施設〕

小学校（2） 中学校（2） 高等学校 幼稚園（2） へき地保健福祉館（1） 生活館（2）

国保病院 診療所（2） 総合研修センター 空港 自治振興会館（9）

神威脇温泉保養所 保健福祉センター 自動車整備工場 家庭用灯油備蓄施設 防災行政無線放送施設

生活改善センター 町民センター うにまるパークセンター 総合葬祭場 津波館

奥尻町海洋研修センター（ワラシャード21） 漁業集落排水施設（2） あわび種苗育成センター

新生ホール青苗 バスセンター 奥尻町稲穂ふれあい研修センター 奥尻クリーンセンター

公園（9） 歴史民俗資料館 奥尻町環境センター ファミリーパーク 町営スキー場 パークゴルフ場



役場所在地 北海道瀬棚郡今金町字今金48番地の1
 郵便番号 049-4393
 電話番号 (0137)82-0111
 F A X (0137)82-2492
 ホームページ <http://www.town.imakane.lg.jp>

【町名の由来】

今金とは、開拓功労者今村藤次郎と金森石郎の両氏にちなんでその頭文字を組み合わせたものである。

【町章の由来】

上部の山(▲)は、開拓の祖今村・金森両氏の冠字をもって高い理想郷を表し、外円は蛇行する川を円につくり流域の未来の進展と町民の融和・協調を表現、また「ノ」の字を中央に配し、穀倉地帯の進展と酪農の推進を表現している。

【地 勢】

本町は、檜山振興局管内の北端部、東経140°01'、北緯42°25'のところに位置し、東は長万部町に、西はせたな町に、南は八雲町に接している。また、北は長万部岳に連なる山地の尾根を境に島牧村と境界を画している。地勢は概ね平坦な利別平野と単調な丘陵地帯及び山林、山岳地帯からなっており、町の中央を東西に貫流する一級河川後志利別川とその支流に沿って水田・畑地が拓け、これらの農用地を囲むように森林地帯を形成している。地質については、第3紀層から成り立ち河川流域は細い帯状の沖積土で平坦地は概ね泥炭地で形成されており、高台丘陵地は火山灰土粘土地帯となっている。

【歴 史】

本町の開拓は、寛永11・12年(1634・1635年)頃に利別川上流で砂金を採取したのが草創と考えられる。そしてこの本町産の砂金は、日光東照宮の造営に使われたといわれている。その後、マンガン・メノウなどの発見、採掘により移住者が相次ぎ入植開拓されたのが本町農業の草分けである。明治26年に入植した今村藤次郎、金森石郎の両氏は明治29年市街地の設置を計画し、宅地129区画に割り、役場・警察予定地を設けたりして今日の今金の基礎をつくった。やがて明治30年瀬棚から分村して戸長役場を開町し、利別村として発足。同39年には2級町村制が施行された。昭和4年に1級町村制が施行され、同年国縫～花石間、翌5年花石～今金間に待望の鉄道が開通、同年11月瀬棚全線の開通をみるに至り、更に郵便局の開設に伴い各集落との電話も開通するなど徐々に現在の形態を有するに至った。昭和22年、開村50周年を契機に町制を施行し、町名も利別村から明治26年に入植した今村藤次郎、金森石郎の冠字をとって「今金」と改称した。以来、諸団体の活発な事業の促進によって、総合的に開発され現在の姿となっている。平成9年には、自治制施行100年・町制施行50年の記念行事、祝賀会を行った。

【町政のあゆみ】

明治30年	瀬棚村より分村、戸長役場開設	昭和63年	種川小学校校舎改築工事完成
昭和4年	1級町村制施行	平成元年	種川小学校体育館工事完成
昭和22年	10月1日町制施行、今金町と改称	平成2年	クアプラザピリカ建設工事完成、ピリカスキー場完成
昭和28年	町立今金保育所開設	平成3年	第3次今金町総合計画策定、美利河ダム竣工
昭和33年	町立国保診療所開設	平成4年	今金町総合公園完成
昭和39年	簡易水道今金市街地に設置	平成5年	プラザ21完成、今金町野菜集出荷施設完成
昭和41年	役場新庁舎落成	平成6年	金原集落基幹センター完成
昭和47年	今金高原模範牧場完成	平成7年	今金町交流促進センター「あったからんど」完成
昭和48年	総合計画の基本構想を策定、今金小学校改築工事完成、町民センター落成	平成8年	玄米バラ集出荷調整施設完成
昭和49年	消防庁舎落成	平成9年	米低温貯蔵庫完成、総合福祉施設「としべつ」完成、自治制施行100周年・町制施行50年
昭和51年	総合体育館落成	平成11年	高齢者共同生活施設「せせらぎ」完成、通所授産施設「ワークショップいまかね」完成
昭和52年	学校給食センター完成、町開基80周年・町制施行30周年記念	平成12年	地域高規格道路一部供用開始(花石～住吉間)第4次今金町総合計画[基本構想][前期基本計画]策定
昭和53年	今金幼稚園落成	平成15年	公共下水道供用開始
昭和54年	高美近隣公園完成	平成16年	花石小学校開校100周年記念式典 公営住宅(緑団地)完成
昭和55年	今金町国保病院改築完成・今金中学校統合校舎完成	平成17年	スポーツ少年団指導者連絡協議会設立、定員適正化計画策定、第4次今金町総合計画[後期基本計画]策定、洪水ハザードマップ作成、今金町次世代育成支援行動計画策定、今金幼稚園開園30周年記念式典
昭和56年	美利河多目的ダム本体工事着工	平成19年	今金小学校校舎完成、花石小学校開校、八東小学校閉
昭和57年	火葬場完成		
昭和58年	老人福祉センター完成、金原小学校改築工事完成		
昭和59年	金原・鈴金簡易水道設置、豊田小学校改築工事完成		
昭和60年	地域特産品生産センター完成		
昭和61年	美利河温泉改築落成、中里小学校改築工事完成		

昭和62年	国鉄瀬棚線廃止	校、金原小学校閉校	
平成20年	神丘小学校閉校、公営住宅（緑団地）完成	平成24年	子ども発達支援センター完成
平成21年	美利河山村留学20周年記念式典		車両格納庫完成
平成23年	第5次今金町総合計画[基本構想][前期基本計画]策定	平成25年	学童保育所完成[移転新築]、美利河小学校閉校
	認定こども園いまかね完成、今金保育所閉所、 今金幼稚園閉園、地域特産品生産センター閉館、 定員管理適正化計画策定		

〔行政施策の重点事項〕

平成22年に第5次今金町総合計画を策定し、長期的に安定したまちづくりを進めるため、全国・世界に通用する「確かな地域力」を育て、明るく住みよい町づくりに取り組んでいる。

1. 【あんしん今金】安全・安心な暮らしが保障されるまちづくり
 - ① 手助けが必要な方をまちぐるみで見守り、健康増進に積極的に取り組み、いきがいを持った生活。
 - ② 身近な地域での医療、治安が良く、防災活動が入念に行われる安心できる生活環境。
 - ③ 自助・共助・公助を基本に、町民が積極的に参画し、共に考え、共に創る共協働。
2. 【いきいき今金】育ち、輝く地域人を育成するまちづくり
 - ① 学校、家庭、地域社会が一体となり、こどもの個性や能力を最大限に伸ばす教育の推進。
 - ② 郷土への誇りと思いやるやさしさを持ち、生きる力と生涯にわたって学び続ける意欲を育む。
 - ③ 団体・企業ぐるみで、幅広い世代の学習機会を活かし、様々な分野でまちづくりのリーダーを育む。
3. 【はつらつ今金】力強い地域産業が育ち、人々が定住するまちづくり
 - ① 人・もの・情報などの地域資源を活用し、競争力の高い産品・商品を安定的に供給。
 - ② 消費や交流の中心地として、幅広い世代の町民が集い、賑わいのある市街地の形成。
 - ③ 地域産業発展の基盤となる情報通信ネットワークや交通基盤の形成と、快適な住環境での定住。

〔文化・観光〕

北海道最大規模の美利河（ピリカ）ダムがあり（※ピリカ「アイヌ語で美しい川」）、その付近のスキー場、パークゴルフ場、宿泊施設、ピリカ旧石器文化館には多くの人が訪れ、観光やレジャーを楽しんでいる。さらに、奥には「美利河・二俣自然休養林」があり、ブナの天然林や清らかな溪流といった豊かな自然が織りなす美しい景観が広がり、標高674m丸山の山頂展望台からは羊蹄山、有珠山、日本海が見渡せ、森の奥に湧き出る秘湯「奥美利河温泉」では、登山の汗を流すことができる。このほか、原生林に囲まれた美しい滝オオシュブンナイの滝、夏には美しいヒマワリ畑が広がるインマヌエルの丘等がある。

市街地には、桜130本・梅110本が植樹された「今金梅苑」があり、付近には商工観光の拠点として、風車の物産館プラザ21がある。「24時間キャンプライブ」「今金いいところまつり」「八幡宮例大祭」などのイベントには、多くの方で賑わいを見せる。

町民センター、総合体育館、生活改善センター等があり、地域住民の文化活動の拠点となっている。

代表する郷土芸能は「今金狩場太鼓」であり、道南の秀峰・狩場山の四季折々に移り変わる壮大な姿を称え、勇壮なりズムを特徴とし、町内のイベントや国内の演奏会に参加するほか、海外での公演経験もある。

また、人々が日々農業に勤しみ、自然への感謝を表した「神丘黎明太鼓」、「鬼能太鼓」が住民によって受け継がれ、各太鼓には保存会があるなど、郷土を誇りとする伝統が守られている。

〔産業・経済〕

就業人口が全就労者の30%をしめる農業は本町の基幹産業であり、利別川流域を中心とした肥沃な土地は道南一の穀倉地帯に発展し、稲作を主体に酪農・畑作となっている。本町の近代農業は昭和39年から7ヶ年にわたる第1次農業改善事業により大きく発展し、各地区で土地基盤整備を中心に大型機械の導入が実施され、近代的な大規模生産農業の推進に大きな効果をもたらしている。また、米の過剰基調に伴う転作田の有効利用の促進、国営かん排事業、道営農地開発事業を積極的に進め主産地形成と農業経営の安定を図っている。一方、酪農においては土地の効率的運用・乳用牛の体質的改善を図り、酪農基盤の整備充実を促進している。

畑作振興については51年度スタートした第2次農業構造改善事業、50年承認第2期山村振興事業、56年認定新農業構造改善事業、57年承認第3期山村振興事業、8年承認新山村振興事業とともに、その成果を期待されるものである。

〔主な公共施設〕

消防署 国保病院 介護老人保健施設 総合福祉施設「としべつ」 高齢者共同生活施設「せせらぎ」
 学校給食センター 小学校(2) 中学校 道立高等養護学校 総合体育館 町民センター
 季節保育所(2) 交流センター(5) 集落センター(2) 生活改善センター(2) 構造改善センター(2)
 寿の家(3) 会館(2) 生活館 三世代交流施設 老人福祉センター プラザ21
 交流促進センター「あったかランド」 種川温泉休憩所 奥美利河温泉山の家 クアプラザピリカ 緑地(2)
 ピリカスキー場 総合公園 公園(3) テニスコート ゲートボール場 野球場(3) ソフトボール場
 パークゴルフ場(2) 野菜集出荷施設 ピリカ旧石器文化館 葬祭場 霊園



役場所在地 北海道久遠郡せたな町北檜山区徳島63番地1
 郵便番号 049-4592
 電話番号 (0137)84-5111
 F A X (0137)84-4657
 ホームページ <http://www.town.setana.lg.jp/>

〔町名の由来〕

平成17年9月1日、旧北檜山町・旧瀬棚町・旧大成町の合併にあたり、公募した中から選定したものである。「せたな」とは、アイヌ語「セタルペシュペナイ」（犬の川）が略されて「セタナイ」（犬の沢）となり、それが転訛したものである。

〔町章の由来〕

「セ」の文字をモチーフに北海道の地形をグリーンでデザインし、オレンジ色で「せたな町」の位置を表現した。グリーンは豊かな美しい自然を、オレンジは人と人とのふれあいをイメージしている。

〔地 勢〕

北海道の南西部、日本海に面する檜山振興局管内の最北端に位置し、気象は、日本海を北上する対馬暖流の影響を受けるため温暖である。北部には道南の最高峰狩場山など1,000m級の山々が連なり、南部には遊楽部岳や白水岳などが連なっており、その中間を1級河川後志利別川が流れている。

〔歴 史〕

旧北檜山町の歴史は旧太櫓村の開基は明らかではないが、天明年間から開拓されたものといわれ、その後、文政3年頃から和人が土着したという記録がある。昭和30年4月1日に東瀬棚町・太櫓村を廃して北檜山町を設置。

旧瀬棚町の歴史は享禄年間において東部沙流地方とともに西部瀬田内（旧瀬棚町）として酋長の根拠地であったもので瀬棚山林の伐採を許可したのが和人定住の始まりと伝えられ、明治35年4月1日、二級町村制が施され瀬棚村と称し、大正8年4月1日、一級町村制施行により同10年1月1日より町制が施された。

旧大成町の歴史は和人移住が永禄年間（1558～1570）に行脚僧が本陣に来往したのが始まりといわれ、その後、時代の変遷に伴い鯉漁業に従事するものが漸増し集落を形成、昭和30年7月20日久遠村と貝取潤村が合併し大成村として発足、昭和41年10月1日町制施行により大成町になる。

平成15年2月、檜山北部4町（北檜山町、瀬棚町、大成町、今金町）合併問題協議会を設置し任意の合併協議が始まり、翌16年4月、北檜山町、瀬棚町、大成町による檜山北部3町合併協議会が設置され、同年12月合併協定調印を経て各町定例議会にて合併関連議案が可決された。翌17年4月に町の廃置分合及び郡の区域決定に係る総務大臣告示に基づき、同年9月1日せたな町を設置。本庁を旧北檜山町に置き、旧瀬棚町・旧大成町に総合支所を置く。

〔町政のあゆみ〕

〔旧北檜山町〕

昭和28年 町制施行により東瀬棚町となる
 昭和30年 東瀬棚町と太櫓村が合併し北檜山町となる
 昭和45年 人口1万人を下回り過疎地域指定
 平成5年 北海道南西沖地震災害により災害救助法適用
 平成10年 役場庁舎新築

〔旧瀬棚町〕

明治13年 戸長役場設置
 大正10年 町制施行により瀬棚町となる
 昭和51年 国道229号瀬棚町～島牧村不通区間開通
 昭和55年 役場庁舎新築
 平成5年 北海道南西沖地震災害により災害救助法適用
 平成15年 日本初洋上風力発電施設建設となる
 平成16年 有機酪農と有機農業推進特区認定

〔旧大成町〕

昭和30年 旧久遠村と旧貝取潤村が合併し大成村となる

昭和41年 町制施行により大成町となる
 昭和59年 役場庁舎新築
 平成5年 北海道南西沖地震災害により災害救助法適用
 平成16年 開発道路北檜山大成線帆越山トンネル完成
 〔せたな町〕
 平成15年 檜山北部4町合併問題協議会設置
 平成16年 檜山北部3町合併協議会設置
 合併協定調印式
 旧3町において合併関連議案可決
 平成17年 廃置分合・郡の区域決定に係る総務大臣告示
 旧北檜山町・旧瀬棚町・旧大成町が合併しせたな町
 平成18年 町民憲章及び町の鳥・木・花を制定

〔行政施策の重点事項〕

まちづくりの基本理念を「共生・協働」「安心」「せたな力」とし、せたな町総合計画に基づき、新しいまちづくりを始めている。

「みんなの笑顔と力で創ろう、未来の「せたな」。」を新町せたなの将来像とし、将来像実現に向け、6つの基本目標を掲げている。

1. 「健やかに暮らせる福祉のまち」

保健・医療の充実、地域福祉の推進、子育て支援の推進、高齢者施策の推進、障害者施策の推進、社会保障の充実

2. 「活力に満ちた産業のまち」

農林業の推進、水産業の推進、商工業の推進、観光の推進、雇用・勤労者対策の推進

3. 「自然と共生する安全なまち」

環境・景観の保全と創造、公園・緑地・水辺の整備、上下水道の整備、環境衛生対策の推進、消防・防災体制の充実、交通安全・防犯・消費者対策の推進、地域自然エネルギーの活用

4. 「多様な交流を生むにぎわいのある快適なまち」

調和のとれた土地利用の推進、市街地の整備、住宅対策の推進、道路網の整備、公共交通機関の充実、港湾・漁港の整備、情報ネットワークの整備

5. 「豊かな人間性と文化を育むまち」

生涯学習の推進、学校教育の充実、青少年の健全育成、芸術・文化の振興、スポーツの振興、国際交流の充実

6. 「みんなで作るまち」

新時代のコミュニティ形成、人権尊重のまちづくりの推進、男女共同参画社会の形成、協働のまちづくりの推進、地域間交流の推進、自立した自治体経営の確立

〔文化・観光〕

当町は、檜山道立自然公園と狩場茂津多道立自然公園を有し、日本海広域観光ルート「追分ソーランライン」拠点・中間に位置し、三本杉岩や親子熊岩などの奇岩岩礁が続く海岸線、道南最高峰の秀峰狩場山などの雄大な自然、清流日本一にも選ばれた後志利別川など貴重な自然資源に恵まれている。また、新鮮な農水産物、温泉宿泊施設、海水浴場、キャンプ場、パークゴルフ場、海洋センターなど多くの魅力的な観光資源を備えている。さらに、地域の特性を生かした「玉川公園水仙まつり」「せたな漁火まつり」「がっぱり海の幸フェスタ in わっためがして大成」など特色あるイベントを通じ、観光拠点ネットワークづくりを進めている。

〔産業・経済〕

当町は、農林業と水産業を基幹産業に商工業など新しい時代に対応した産業振興を推進している。農業は、稲作と酪農畜産が中心であり、温暖な気候と稲作技術の進歩により良質米を出荷している。畑作の馬鈴薯は男爵芋の主産地を形成し種子と食用馬鈴薯を生産している。酪農畜産では、中山間地の活用を図り主に生乳や肉用牛（素牛）の生産をしている。また、環境と調和したクリーンな農業として瀬棚区では有機農業を行っている。林業は、町の総面積の約8割を占める森林を貴重な資源として、森林の保全と整備を進めながら林業経営基盤の強化に努めている。

水産業は、イカやサケといった回遊資源に依存した漁業形態から、つくり育てる栽培漁業への転換を積極的に進め、漁業生産の拡大と経営の安定を図っている。商工業においては、大型店進出などの影響や消費者ニーズの多様化、消費動向の変化により、商品販売だけでなく情報、文化機能を有した商業へのニーズが高まっており、経営環境は厳しい状況にあるが、商店街の活性化などへの自立支援の促進と農林水産業との連携による活性化を模索している。新エネルギーでは、平成15年に日本初となる洋上風力発電2基を設置しており、今後も民間事業者の参入による再生可能エネルギーの推進を図っていくこととしている。

〔主な公共施設〕

【北檜山区】健康センター 総合福祉センター 生活支援ハウス 障害者グループホーム 学童保育所 保育所 町民いこいの家 町民ふれあいプラザ 高齢者センター 幼稚園 小学校(2) 中学校 学校給食センター 町民体育館 青少年センター 町民プール 真駒内球場 情報センター 農業センター 子育て支援センター 米乾燥調製貯蔵施設 玄米ばら集出荷調製施設 グリーンパーク 国保病院

【瀬棚区】保健センター 総合福祉センター 公営温泉浴場 養護老人ホーム 農畜産物加工センター 生活支援ハウス グループホーム 保育所 学童保育所 町民センター ふれあいセンター 小学校(2) 中学校 海洋センター 三杉球場 郷土館 医療センター 青少年旅行村 国保病院診療所 国保病院歯科診療所

【大成区】保育園 学童保育所 農漁村総合センター 町民センター 小学校(1) 中学校 青少年会館 郷土館 国保病院診療所 水産種苗育成センター ヒラメ中間育成センター 道の駅てっくいランド大成 国民宿舎あわび山荘 国民温泉保養センター

3. 町村の基本構想

○基本構想

(平成29年3月1日現在)

区分 町村名	原案策定年月日	議会の議決年月日	基本構想の期間	改正の場合 改正前の期間
江 差 町	H23. 2. 25	H23. 3. 11	H23 ~ H32	H13 ~ H22
上ノ国町	H21. 11. 24	H21. 12. 18	H22 ~ H31	H12 ~ H21
厚沢部町	H23. 2. 16	H23. 3. 9	H23 ~ H32	H13 ~ H22
乙 部 町	H24. 4		H24 ~ H33	
奥尻町	H23. 3. 1	H23. 3. 10	H23 ~ H32	H13 ~ H22
今 金 町	H22. 11. 10	H22. 12. 16	H23 ~ H32	H13 ~ H22
せたな町	H19. 11. 26	H20. 1. 11	H20 ~ H29	

○基本計画

区分 町村名	計 画 の 名 称	策定(議決)年月日	基本計画 の 期 間	実施計画 の 有 無	実施計画 ローリング システム 採用の有無
江 差 町	第5次江差町総合計画	H23. 3. 11	H23~H32	有	有
上ノ国町	第5次上ノ国町総合計画	H21. 12. 18	H22~H31	有	有
厚沢部町	第5次厚沢部町総合計画	H23. 3. 9	H23~H32	有	有
乙 部 町	乙部町まちづくり計画	H24. 4	H24~H33	有	無
奥 尻 町	第5期奥尻町発展計画	H23. 3. 10	H23~H32	有	有
今 金 町	第5次今金町総合計画	H22. 12. 16	H23~H32	有	有
せたな町	せたな町総合計画	H20. 1. 11	H20~H29	有	有